

令和3年度 国富町立木脇小学校 学校関係者評価書

【学校経営ビジョン】 「目がとどく、声がとどく、心がとどく」教育の実践と教職員の指導力・学校の組織力の向上によって、「自ら学び、豊かな心とたくましい体を持ち、自分のよさを発揮しながら、進んで実践する児童の育成」を図る。							
4段階評価 4：達成（期待以上） 3：ほぼ達成（ほぼ期待どおり） 2：不十分（やや期待を下回る） 1：改善を要する（期							
	評価項目(指標)	具体的目標	学校の自己評価コメント (○:アンケート結果、◇:結果の考察・分析と改善策等)	自己評価	関係者評価	学校関係者評価コメント	
進んで学ぶ子を育てる	1	基礎的・基本的な内容の定着（ICTの活用）	授業がよく分かったと答えた児童が80%を超える。 児童がICT機器（タブレット等）を100%使用できる。また、学習の内容理解を深めるために自分の考えや意見を伝えることができる児童が70%を超える。	○児童・保護者アンケート結果で、3または4を選んだ肯定的な評価の合計 ・授業はよくわかる・・・児童94%、保護者79% ・ICT機器を使って学習できる・・・児童94%、保護者73% ◇子どもはICT機器を積極的に活用し、使えるようになってきている。今後、教師も共に学び、ICT機器を十分活用して授業を行っていく必要がある。子どもが勉強することを「楽しい」と感じるような教材の準備など手立て(教材研究等)を考え、子どもが「できた」「わかった」と言える授業を展開していくことが必要である。また、劣等感や不安感をもつ子どもに対するサポートを行い、自信をもたせるようにする。さらに、学び合いの場の設定を行い、対話を大切にし、お互いに伝え合うことで理解が深まっていくことを学ばせていく。	2.7	3.2	○ICT機器(タブレット)を活用する授業は、児童が大変興味をもって取り組んでいると感じた。社会に出る前に学べることは意義深いと思う。 ○タブレットを使用することで、発表できない児童が、文字や画面を使って表現ができたという利点も挙げられていた。また、全国でいじめの問題もあったので、今後気を付けて活用してほしい。 ○参観日の授業では、子供達が先生方の指導を受け、素直に積極的に取り組む姿が見られた。また、先生の質問に友達同士で意見を述べ合い、先生と児童が一体となり、考えを深めている姿が見られた。 ○考えを伝え合ったり、発表したりすることについては、コロナ禍によるマスクや会話の制限が響いていると考えられる。達成感を感じる工夫があるとよいし、家庭の会話の機会も重要になると思う。 ○読書については、児童と保護者の評価に開きがあるが、児童が学校やその他の場所など、保護者の見ていないところで読書をしているのであれば素晴らしいと思う。 ○学校での様子を見ると、児童も本に親しんでいると感じる。読書の啓発については、強制的なものではなく、興味を持たせるところから始めてみてはどうだろうか。親しみやすい本や、ビブリオトークなどを取り入れるのもよいのではないかと。
	2	学習意欲の向上	考えを伝え合ったり、進んで発表したりすることができたという児童が80%を超える。 学習時間(集中して取り組んでいる時間)が、学年の目安の時間を	○児童・保護者アンケート結果で、3または4を選んだ肯定的な評価の合計 ・自分の考えを伝えられる、発表できる・・・児童65%、保護者58% ・自宅で学年の目安以上、勉強している・・・児童76%、保護者51% ◇普段の授業理解は深まっていると思うが、自分の考えを分かりやすく伝えることが苦手で定着がまだ十分に図られていない。家庭学習を通して、その日の学習内容や苦手な部分の把握を行っていたり、学習の定着を図る等保護者と共に取り組んでいくことが必要である。次年度、スキルの時間を活用して、更なる学力向上を目指す。また、家庭での時間管理の必要性について伝え、保護者に理解を求め、実践していく。			
	3	読書活動の推進	低学年は月10冊、中学年は月6冊、高学年は月3冊以上読む児童が80%を超える。	○児童・保護者アンケート結果で、3または4を選んだ肯定的な評価の合計 ・自分から進んで本を読む・・・児童48%、保護者40% ◇全体的には読書量が増えているが、本を読む児童と読まない児童がいる。各学年の貸出冊数をこまめに確認し、読書への啓発を行う。また、本の扱いについて公共のものを大切にすることを意識する。今後、興味をもたせるために教師の読み聞かせを行ったり、家庭学習における読み声のあり方について見直したりすることが必要である。			
思いやりのある子を育てる	1	規範意識の高揚	学校や家庭、地域が連携を図り、時と場に応じたルールやマナーを守る児童の育成を目指す。(きまりを守る児童100%)	○児童・保護者アンケート結果で、3または4を選んだ肯定的な評価の合計 ・交通ルール・学校のきまりを守る…児童95%、保護者92% ◇児童・保護者ともに肯定的な自己評価の割合が高いが、廊下歩行や無言の場についての指導をさらに充実させるために見届けが必要がある。また、当たり前のことが当たり前に見えるような習慣化をさらに図っていく必要がある。	3.1	3.2	○児童と保護者、先生との評価の差が大きいのと感じた。学校で先生から見るとまだ指導が必要のようである。継続的な指導をお願いしたい。 ○あいさつの評価が意外に低かった。マスクの着用による影響もあるかもしれないが、朝の挨拶運動が継続して必要と感じた。 ○学校訪問時に、あいさつをきちんとしてくれるし、掃除も静かにしている。コロナ対策として、無言活動等制限の多い中、がんばっているように思う。 ○地域性もあるかも知れないが、子供達の明るい挨拶、そして友を思う気持ちなど、多くの場面を見て素晴らしいと思う。 ○友達同士で仲良く下校する姿が見られた。助け合いながら登下校していると感じる。 ○思いやりに否定的な評価をつけた9%の児童の理由を確認する必要があると感じる。先生の評価も含め、保護者も気を引き締めて見守っていく必要があると感じた。
	2	あいさつ・会釈の啓発	大きな声で気持ちのよいあいさつをしたり、会釈ができる児童が80%を超える。	○児童・保護者アンケート結果で、3または4を選んだ肯定的な評価の合計 ・大きな声で気持ちのよいあいさつ、会釈…児童89%、保護者73% ◇小・中合同のあいさつ運動は実施できなかったが、計画集会委員会・生活ボランティア委員会による月・水・金曜日を中心とした輪番でのあいさつ運動により、あいさつについての児童の意識は向上している。継続と工夫に努めたい。			
	3	思いやり(感謝や貢献の心)	思いやりのある言動ができると答えた児童(保護者)の割合が70%を超える。	○児童・保護者アンケート結果で、3または4を選んだ肯定的な評価の合計 ・友達への優しさ・思いやりのある行動…児童91%、保護者87% ◇困っている友達に声をかけたり手伝ったりする行動が随所に見られるが、言葉遣いや名前呼び方については課題が見られる。児童同士の問題発生の際は、複数の職員で聴き取りや指導を行っている。道徳教育並びに人権教育の充実とともに努めていく。			
たくましい子を育てる	1	体力や運動能力の向上	休み時間・体育の時間に、進んで体を動かしている児童が70%を超える。	○児童・保護者アンケート結果で、3または4を選んだ肯定的な評価の合計 ・楽しく運動したり、外で遊んだりしている…児童86%、保護者82% ◇新型コロナウイルス感染症対策として、密を避けるための対策が、結果的に外遊びを制限してしまった。休体みには工夫して外遊びなどの運動ができるように啓発する。	3.2	3.4	○ここ2年はコロナ禍で、運動不足の児童も多くなっていると思う。コロナ禍を脱して、日常が戻れば自ずと体力も向上すると思う。スポーツの推進もPTAから発信できるといいと思った。 ○コロナ対策のため外での遊びや給食班での食事等も制限されているとのことなので、早く心おきなくグループで過ごしたり、校庭で遊んだりできるようになってほしい。 ○先生達が毎日検温、うがい、手洗い、歯磨き、消毒、マスク着用等指導を徹底され、大変だったと思う。きめ細かな指導に感謝している子供達も自分の身は自分で守る意識が高まっていると感じた。 ○食べ物の好き嫌いや食事時間は、食育に非常に大切だと思う。食事時間のかかる児童には、少しでも時間が確保できるように配慮されており、食事量で調整するなど個別ケアをしっかりとされていると感じた。
	2	健康的な生活習慣の確立(新型コロナウイルス感染症予防)	手洗い、うがい、歯みがき、消毒、マスク着用を確実にし、けが・病気の予防や立腰に努める児童が70%を超える。	○児童・保護者アンケート結果で、3または4を選んだ肯定的な評価の合計 ・手洗い・うがい、食後の歯みがき・マスク着用…児童92%、保護者86% ◇手洗い・うがい、マスク着用については、児童は習慣化している。長引くコロナ禍によって保護者の意識も高まってきているのではないかと。今後も継続していく必要がある。			
	3	食のマナーの徹底	食事のマナーを考えながら、食事ができる児童が70%を超える。	○児童・保護者アンケート結果で、3または4を選んだ肯定的な評価の合計 ・食事のマナーを守っている…児童92%、保護者69% ◇「食事のマナー」については、児童と保護者の間で評価のずれが大きい。家庭と連携しながら取り組む必要があるが、朝食を含めた基本的な生活習慣が身に付いていない児童(毎日食べている。平日85%、休日71%)もいるため、引き続き啓発をしていく。			
開かれた学校をつくる	1	家庭や地域への情報の積極的な発信と共有	まちコミメール登録数を95%以上にし、常に情報発信を行い、共有できる体制を作る。 通信やホームページの更新などを月1回以上定期的に行い、情報発信に努める。	○保護者アンケート結果で、3または4を選んだ肯定的な評価の合計 ・学校文書、通信、ホームページ等で、学校の取組や児童の様子がよく分かる…82% ◇学校通信は定期的に、学年・学級通信は随時発行している。まちコミメールも状況に応じて、随時送信している。ホームページは更新が進むときとそうでないときがあった。次年度は、更新方法の工夫により、更なる情報提供に努め、開かれた学校作りを行っていきたい。	2.9	3.3	○まちコミメールも定着してきて、最新情報を知る手段となった。コロナ対応について学校からの連絡も迅速で、ホームページ更新情報等もまちコミメールから発信できると幅が広がると思う。 ○家庭と地域社会、そして学校との子育ての一体化、教育活動のあらゆる場面に成果が出ているように感じられる。 ○地域と学校関係者との連携は、非常にできていると思う。今後は、PTAとしてももっと声を上げて子供達に関わって下さる方を求めているかなければと思った。自分自身も支援できることはしていきたい。 ○写真が豊富に載せられている学校通信「けやき」により、毎月の学校行事や子供達の様子、そして先生達の細やかな指導がよく分かった。 ○ホームページ、けやき等で行事予定を確認している。コロナ禍で行事が縮小され、学校と関わる機会が少なくなっていると感じているが、先生達も工夫を重ね、児童にとって思い出多い小学校生活を送れることを念じています。お手伝いできることがあれば、協力していきたいと思う。
	2	学校支援地域本部事業等の有効活用とキャリア教育の推進	学校支援コーディネーターを中心に、地域人材(企業等)の活用を推進する。(各学年一人は活用する。)キャリア教育に関心をもち、自分の将来について考えさせる。	○保護者アンケート結果で、3または4を選んだ肯定的な評価の合計 ・学校は地域や保護者の方々と一緒に教育を進めている…81% ◇国富音頭(1年)、ピーマン学習(2年)、いも苗植え・収穫(3年)、生活習慣病予防講座、水質調査(4年)、米づくり(5年)、きわきつフェスタ等で地域の皆様に御支援いただき、活動を進めることができた。コロナの状況に応じて活動の工夫や授業と人材活用の関係の調整を検討していきたい。			
	3	関係機関との連携	連携型小中一貫教育を推進する。青少年育成協議会、社会福祉協議会等との連携・協働を行う。 町福祉保健委員、民生委員・児童役員、スクールソーシャルワーカー等との連携を行う。	○保護者アンケート結果で、3または4を選んだ肯定的な評価の合計 ・学校は、児童の健全育成を目指して、中学校や関係機関等と協力して活動している…72% ◇新型コロナウイルス感染拡大防止のため、参観日と懇談会は限られた回数での実施となった。また、関係機関との連携は積極的に図ることができたが、中学校との連携は限定的だった。次年度、コロナの状況に応じて、参観日の実施方法や連携の在り方を工夫していきたい。			